

つながる鎌倉エール事業
令和6年度実施事業報告会 各取組の講評

■協働コース

1 野村総研跡地を魅力ある場所に プロジェクト （山桜を守る会）

① 評価できる点

- ✚ 環境整備の活動において行政側で基盤整理をし、市民側で行政の手が届かない範囲を整備するという役割分担の構図は協働の進め方として理想的であり評価できる。
- ✚ 協働において市役所だけでなく自治会や他団体（青空自主保育なかよし会メンバー）と連携しながら環境整備をしていた点が素晴らしい。

② 課題点

- ✚ 予算において土木分野の重労働に対する適正な人件費が確保できておらずボランティアベースになっている点や、人員不足とスタッフの平均年齢を踏まえると今後の活動の継続性に懸念が残る。
- ✚ 事業開始時に年間のスケジュール調整および役割分担の明確化されることが必要。

③ 今後のアドバイス

- ✚ 鎌倉市内の同じような課題を抱えた地区に対して、これまでの活動を研修プログラムとして展開できるよう他団体とも協力し合いながら、他地区への波及を目指して欲しい。
- ✚ 協働の利点を活用し、行政と共に戦略的に自分たちの活動内容を地域に波及させることで、地域全体を巻き込みながら若い世代や他団体との繋がりをつくり、今後も継続的に活動を行って欲しい。

2 子どもがつくるローカルマガジン「ことこと」(NPO 法人マナビノキ)

① 評価できる点

- ✚ 子どもたちが地域課題に触れることで、地域愛を育むと同時に地域課題解決への意識が芽生え、地域人材の育成に繋がった点が評価できる。
- ✚ 協働において地域のつながり課で目指すシビックプライドの醸成とマナビノキの事業の方向性が明確であったため、お互いが必要とする点を活動の中で補い合いながら進められており協働の事例として評価できる。
- ✚ 協働を通して行政の立場で可能な教育現場へのアクセスを活用し、公立の小学校や中学校含め鎌倉市全域の子どもたちに活動内容を発信できたことで、多様な子供たちが集まり活動を通して交流が深まった点が評価できる。

② 課題点

- ✚ 活動を通して、子どもたちが作成した成果物に対して賃金を設けるなど、働くこととは何かというところまで学びを繋げられたらさらに良かった。

③ 今後のアドバイス

- ✚ 今回の活動の成果物やプログラムを整理し価値を明確化することで今後の活動に還元して欲しい。
- ✚ 体験格差が叫ばれている昨今、市の助成制度を活用していることの意味として、例えば、困窮家庭のお子さんには、3,000 円の参加費を免除する等の措置を行うなどがあっても良いのではないかな。